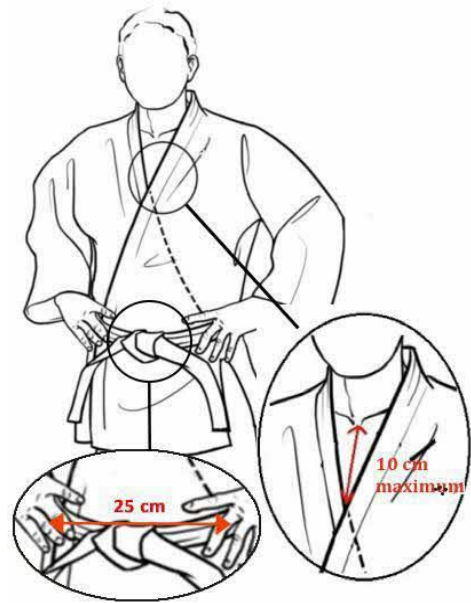


柔道衣コントロールについて

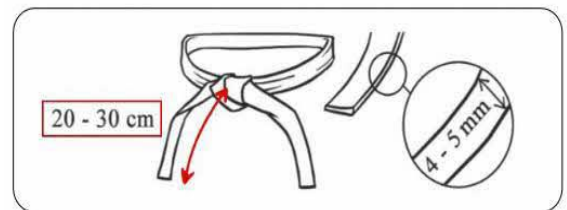
1. 上衣の大きさ・帯の長さを確認

① 測定器を用いて、胸骨の上部頂点から襟の交差部までの垂直直線距離が10cm以下であることを確認。

② 帯が腰骨の位置で正しくきつく締められた状態であることを確認。
その後、測定器を用いて、上衣を前で重ねた際に2つの下襟の距離が水平に25cm以上であることを確認。

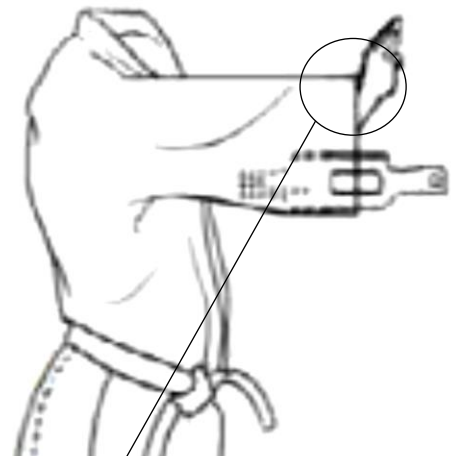


③ 測定器を用いて、帯が中央の結び目から端まで20~30cmに収まっているかを確認。



④ 袖の長さが腕を真っ直ぐに伸ばして掌で三角形を作った状態で、手首の骨（尺骨の頭）を含めて腕全体が覆われているかを確認。覆われていない場合は、自分自身で柔道衣を伸ばし、一度だけ再測定ができる。

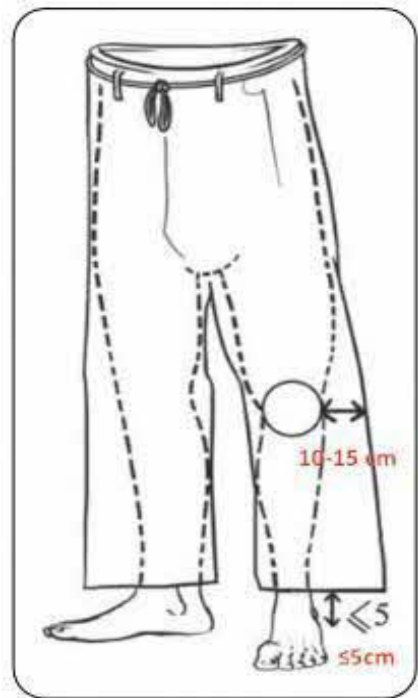
⑤ 腕を真っ直ぐに伸ばして掌で三角形を作った状態で、測定器全体がスムーズに袖の中に滑り入るかを確認。



手首の骨（尺骨の頭）を含めて腕全体が覆われている

2. 下穿きの大きさを確認。

裾口からくるぶしの外側(足首)までの距離が5cm またはそれ以下であるか、幅は膝の位置で10～15cm に収まっているかを目視で確認。満たないと判断した場合は、測定器を用いて確認する。



3. 女子選手のTシャツについては、次の通りとする。

- ① 色は白(透けない)、半そで、丸首とする。
- ② 製造業者マークは、最大30cm²のサイズであれば認められる。柔道衣を着用した際に、製造業者マークが見えてはならない。
- ③ 所属名称もしくは、所属を表すエンブレムを左胸に固定してつけることは認められる。大きさは最大100cm²とする。
- ④ いかなる商業的なマーキングもつけてはならない。

4. その他

- ① 規程に満たない場合、短時間に着替えるよう命じなければならない。それでも満たない場合は出場を認めない。原則として、主催者は予備の柔道衣を準備しない。
- ② 手足の爪は短く切っており、試合者の個人的衛生状態がよく保たれていること。
- ③ 長い髪は試合相手の迷惑にならないよう束ねてあること。
- ④ マウスピースの着装については、事前に審判員(試合場係員)へ申し出ることによって着装することができる。ただし、白もしくは透明なものに限る。
- ⑤ 下穿きの下に着けるスパッツ等の長さは、膝よりも短いことを原則とする。